

とっとり市報

「私たちは清潔な環境を作りましょう」

(鳥取市民憲章)



11月のこよみ

狩猟解禁	文化の日	臨時市議会	勤労感謝の日	知事市会議員選挙
1日	3日	12日	23日	25日

- ★「文化祭」花道連合展(2～5日, 商工会館)
- ★知事, 市会議員選挙補充選挙人名簿登録申請(4～10日)
- ★基本選挙人名簿縦覧(5～19日)
- ★鳥大演劇発表会(10日 遷喬小)
- ★秋季大誓文払い(15日から市内)
- ★テレビ「とっとり案内」(15

- NKT, pm 5, 40～)
- ★伏野地内海岸砂地造林事業着工(中旬)
- ★鳥取市小学校教育研究大会(16, 17日久松, 湖山, 豊実)
- ★米子・鳥取間駅伝(17, 18日)
- ★農業構造改善推進協議会(下旬, 県経済連)
- ★寄生虫予防旬間(21～30日)
- ★急性灰白髄炎(小児マヒ)予防接種(27～30日市々4カ所)
- ★造林用苗木の無償配布(29, 30日)
- ★新築家屋評価(月間)
- ★秋の火災予防運動(下旬)

文化財シリーズ ⑩

キリシタン灯籠

栗谷の興禅寺、上町の観音院、寺町の一行寺、行徳の聖神社隣地にあつて、ともに県の保護文化財となつてゐる。写真は興禅寺庭園の片隅に建つものであるが、普通の灯籠とちがつて火袋も笠も台座もなく、棹の形が十字架を思わせ、浮き彫りの像がキリスト教の聖者の像に近いところから、江戸時代の隠れキリシタンがひそかに拝んだものとみられて、キリシタン灯籠と言われている。なかでも興禅寺のこれは興禅寺型として全国的に有名である。

生活にうるおいを

市民文化祭がスタートす



本通り佐藤晴彦さん作 「女像」 (市教委賞)

鳥取市教育委員会が制度
 発足十周年の機に、市内文
 化団体の協力を得て開いた
 「第一回市民文化祭」は、
 9月13日の開幕以来種々の
 催を行ないましたが、11月
 にも花道連合展(2、4
 日)、鳥大演劇発表会(10
 日)があります。文化とは
 生活のやり方ということだ
 そうですが、どなたも生活
 の余暇を有効に使い、豊か
 な人生を送りましょう。こ
 の催は今後年とともに研究
 して毎年続けていくことにな
 っています。

第1回

市民美術展

市民文化祭のなかでも10月10日から14日にかけて、体育館で開かれた「市民美術展」は、大火前の市展以来と絶えていた試みであっただけに注目されるものでした。主催側の市、市教委では鳥取市の立場を考え募集対象も県東部在住者に拡げ呼びかけましたところ、一般からの応募、日本画10点、洋画31点、彫刻4点、

工芸9点、書道37点のほか、児童生徒から絵画二〇一点、書道二二四点の作品が集まりこれを期間中全部展示しました。
 なお、児童生徒には全員に参加賞を贈りましたが、ほかの入賞者はつぎのとおりでした。
▽一般の部入賞者
日本画
 (市議会議長賞)
 吉方 小谷 尊子
 赤い車のある風景
洋画



市民美術展入賞者と審査員など (体育館で表彰式後)

(市長賞)

野坂 岡村 正司

無題

(NHK鳥取放送局長賞)

寺町 安東 尚文

彫刻

秋近し

(市教育委員長賞)

本通 佐藤 晴彦

工芸

女像

(日本海テレビ賞)

丹後片原町

田中 幸成

蝶紋花器

書道

(山陰日日新聞社賞)

丹後片原町

田村 進

心正則葉正

(市教育委員長賞)

立川町一丁目

金沢 朴堂

写真

葉

(日本海新聞社賞)

本町一丁目

西尾 信敏

応援

(山陰放送賞)

中村 遠山 権雄

砂丘

市民合唱団も出演

県合唱祭で一位

本年5月結成以来、熱心な練習を続けていた鳥取市民合唱団は、9月15日、遷喬小学校で開かれた文化祭

行事の鳥取県合唱祭に初出演しました。このときのメンバーは四十五人、鳥大榎先生の指揮で北原白秋作詩の祭、自由曲子供と笛を歌い、一般の部で見事一位の栄冠を獲得しました。なお、11月4日に広島市で開かれる全日本合唱コンクール中国予選に参加する予定です。

また有志による市唱後援会も近く発足の予定。合唱団ではアルトとバスの団員を募集しています。

市民文化祭行事(11月)

○花道連合展

2日、4日(商工会館)

○砂丘展

4日まで(科学博物館)

○鳥大演劇発表会

10日(遷喬小)

(すんだもの)

(9月)

児童科学展、鳥取県合唱祭、労音、池ノ坊展

(10月)

市民体育展、市民美術展、邦楽大会、民芸美術展、鳥大フイル、高校演劇発表会

鳥取労音例会案内

11月(14日、6時15分)

伊藤京子ソプラノリサイタル、(欧洲帰国第一声)

曲目「シューベルト鱒ほか

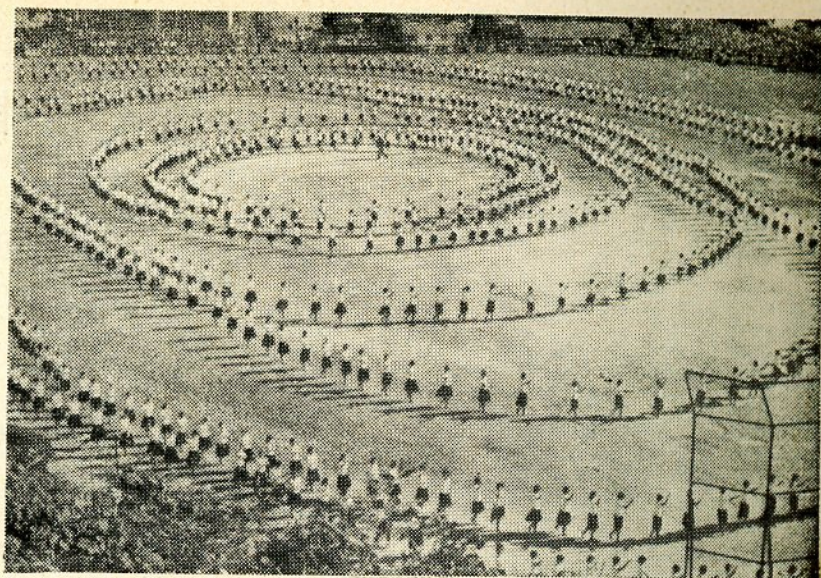
会費二百円、入金金百円。

遷喬小講堂

遷喬小講堂

醇風校区が優勝

第5回市民体育祭



7月28日の球技競技を皮切りに始まっていた第五回市民体育祭は、10月6日公設グラウンドで行なわれた市民運動会と、体育館前をスタート、公設グラウンドをゴールとする区間五〇・六キロの市内一周駅伝競走を最後に盛況裏に終わりました。駅伝競走の結果はつきのとおりで明徳校区が一位でしたが、この結果総合得点で醇風校区が二位以下を大きく引き離し一回目につき二度目の優勝を飾りました。

総合成績

(数字は総合得点)

- 1位 醇風 八一・二五
- 2位 明徳 六九・二五
- 3位 賀露 六九・二五
- 4位 面影 六五・五〇



駅伝1着の明徳チームのアンカー西尾信夫君

- 5位 豊実 六四・七五
- 6位 大正 六三・二五
- 7位 美保 五八・二五
- 8位 東郷 五八・〇〇
- 9位 松保 五四・二五
- 10位 湖山 五二・五〇
- 11位 稲葉山 五〇・一三
- 12位 美穂 四九・八八
- 13位 吉岡 四三・二五
- 14位 遷喬 四二・〇〇
- 15位 修立 三六・二五
- 16位 明治 三一・二五
- 17位 日進 二八・七五
- 18位 米里 二八・一三
- 19位 富桑 二五・五〇
- 20位 末恒 二二・五〇
- 21位 中ノ郷 一六・五〇
- 22位 大和 一一・七五
- 23位 倉田 一〇・二五

市内一周駅伝

市民体育祭の最終日を飾る駅伝競走は、秋晴れの10月6日、市立体育館を午前11時に出発し市内全コース五〇・六キロを十五校区の代表選手によって走破しました。

栄冠は三年連続優勝をねらう豊実チームを押えた明徳チームに輝きました。

- 一位 明徳 (3時間7分14秒)
- 二位 豊実 (3時間12分30秒)
- 三位 明治 (3時間15分41秒)
- 四位 神戸
- 五位 東郷
- 六位 倉田

24位 神戸 一〇・二五
 25位 久松 四・七五
 26位 大郷 四・三八
 27位 千代水 一・二五
 なお2・3位、23・24位は同得点なるも種目の得点の上位のものにより順位を決定。

- 七位 米里
- 八位 面影
- 九位 賀露
- 十位 大和
- 十一位 稲葉山
- 十二位 美保
- 十三位 末恒
- 十四位 大正
- 十五位 中ノ郷

お母さん

本を読みましよう

鳥取図書館では、お母さん方の読書方法としてPTA母親文庫を勧めています。これはPTA単位に四人が一組となつて一週間づつ回覧する方法です。この方法での読書はとかく家事に追われて忙しいお母さん方にも、手許に本が届くのでよく読まれているようです。

これは子供の成長を真剣に考える母親の願いと、加えてマスコミをはじめ社会や環境からの影響をうけやすい現代の子の教育は単に自分の家だけで考えればよいといった考え方では到底できなくなってきたりしていることのがあらわれだと思ひます。

その問題解決の一つとして読書し、班員の方々と、或いはPTAの参観日を利用して会員相互間で、家庭教育の問題、社会環境の問題などを話し合い、よりしあわせな子供の育成に、楽しい街づくりに尽していただくよう皆さんのおいでを待っています。

(鳥取図書館)

第三回

市民作品コンクール入選発表

俳句

高田 一大 選

入選一位

立川町五丁目鳥大
高田 弘政

入選二位

卯垣県管住宅
宮崎 昌代

入選三位

横 枕
前田 吟月

風綿の行方を知らず秋風に

―鳥取紡績にて―

【評】

風綿というのは紡績工場内において、紡機から生ずる綿屑が、あたかも風に吹かれる綿雪の如く空中を飛びただよっているさまをさしていう専門語である。この場合行方を知らずといったのは作者が風綿という客体に対しての主観である。そして秋風にと詠ったのはこの作者の俳句的風懐である。

眼

【評】

職難しとは生きがたき世相に対しての作者のなげきである。働くに職なき作者が真昼の一刻を真実に生きんとしている時、そこにだんだんと殖え飛んでくる蜻蛉の眼が何かをこの悩める作者に訴えたというのである。その蜻蛉の眼は果して何を訴えたのであろうか。それは人間という悪魔の恐喝か、迫害か、はたまた神の啓示か。

流星やふるさとグムの真底なる

【評】

何百年或いは何千年かも知れぬ。わがなつかしの祖先伝来のふるさと今人は人造湖の真底に沈淪しているのである。自然と人間(科学)の相剋を流星という俳句季語に託しての感懐。その他応募作には佳作が沢山あった。

(高田)

短歌

山本 嘉将 選

入選一位

国 安

渡辺 享

入選三位

本町四丁目

北川 絃子

夕闇の暗きに組まれいる貨車の中に啼き合う小牛らの声

【評】

情景の中に素朴なリズムがひびいている。

入選二位

立川町五丁目

中島 栄治

小女等の投げしゴムまり我が鎌にはねかえり来てはねかえりゆく

【評】

こころのはずみのとらえ方がおもしろい。

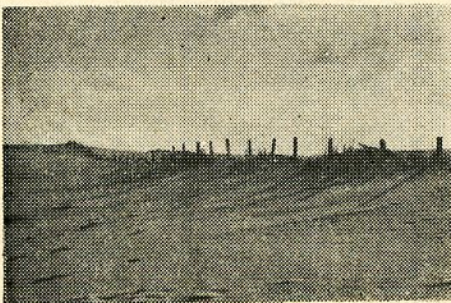
お礼 市文化の一助にでもはじめたこの催し、三回目を迎える多数の作品をいただきありがとうございます。別記選者の方に厳選してもらいました。授賞式は11月6日(火)午後1時から市役所議場で行ないます。入賞者の方ぜひご出席ください。(案内状別送)

街路樹は陽にひかりつつさわさわと音立ててみな葉裏を見する

【評】

作者も明るい気持ちで歩いている。それがよく表われた。

してはげみ合うべきではないでしょうか。入選の三名の方、お名前は存じませんが、短歌というものに親しみを持っていて、これからまだ伸びる素質のある方だと思われしく思います。(山本)



(秋の砂丘)

詩



石破

亮選

川柳

河村日滿選

ている

沈んだ街の歩道にそって
重い心を脚の鎖につなぎ
拒絶された窓を

かすかに叩きながら
今夜も歩く人がいる
ひとつの音が響けば

それが底なしの亀裂になっ
て

夜がいつそう夜になる
そんな くらさのなか

こんばんわ
誰もいませんか

夜明けは遙かな半球の彼方
闇はいよいよ闇になり

その極点から音もなく
黒く光って流れる川のほと
りを

小さな燈火の洩れる窓
かすかに頷く気配を呼びな
がら

今夜も歩く人がいる
こんばんわ
誰もいませんか

できそうなほど読み返しま
した。童謡風なもの、小唄
形式のもの、抒情、叙事と
さまざまな作品を。そのな
かで別記入選四篇のほか野
際康夫さん(湯所町)の

「暦日」、一位竹内米明さ
んの別作「らくだ」に心ひ
かれました。これら六篇に
順位をつけることはつらい
ことでしたが、現実の生
活につながって胸をうつ接
点」という見地から、井上
さんの「袋川」が最もよい
と思いましたが文字と言葉
の扱いに少しぞんざいな扱
いがみられました。久利さ
んの「石」は隙間のない構
成で群をぬいでいながら

「断定と説得」の間にあっ
た三連の二行の説得が気にな
りました。一位竹内さん
の「誰もいませんか」は、
何気ないような抒情のなか
にたたみ込まれた屈折と拡
がりがあり、読み返すたびごと
くに無気味な重さを持って響
いてきました。岡本さんの
「墓地」はいとし子を失っ
た悲しみを押えて、自らを
も観照の客体にしようとする
澄み切った瞳が感じられ
る作品でした。(石破)

【選後評】
二十四篇の応募詩、暗唱

天 江崎町
老荷 一雄

【評】
夫婦が信じ合っていること
とは当然のようなことだ
が、「二」と二では四だが世
間ではそうでない」通り複
雑怪奇の世。その中で年老
いるまで信じ合えたいしあ
せは大きい。心温かい佳品
である。

地 賀露町
小林 忠治

【評】
四季を通じて砂丘の風景
は素晴らしい。八歩さんの
抱く子に顔撫でられる立語
し

【評】
「はるかなる砂丘はひとり
歩くべし」の名句には及ば
ぬが、この句また棄て難い
ものがある。
(選外佳作)
国安 渡辺 享
大森五区 井上 栄一

【評】
「はるかなる砂丘はひとり
歩くべし」の名句には及ば
ぬが、この句また棄て難い
ものがある。
(選外佳作)
国安 渡辺 享
大森五区 井上 栄一

感想文

市報編集委員会選

①題 人に親切にされうれ
しかった話
入選 元鋳物師町
大住要治朗

佳作 職人町
福田澁次郎

②題 あの頃の鳥取
入選 立川町五丁目
民野 武治

(花のトンネル)
佳作 新鋳物師町
下田 善雄

③題 市報を読んで
入選佳作の該当なし

【評】

これまでも論文、ヒント
などとともに感想文の部を
設けてきました。今年はず

相からみて①と②の題を選
びましたが応募少なく残念
でした。それでも入選大住
さんの「塩辛い西瓜」福田
さんの転校話した。あの頃
の鳥取」では街、旧村のか
くれた昔話を集めたく思
いました。寄せられた三
篇とも校士手のものでし
た。市報感想文、いつも期
待するのですが今回応募僅
かに一篇、これはいつでも
おきかせください。(T)

入選一位

誰もいませんか

東品治町

竹内 米明

こんばんわ

誰もいませんか

街路樹が風をくわえて眠っ

入選詩

第三回市民作品コンク
ル入選詩

一位 誰もいませんか

(東品治町 竹内米明)

二位 袋川

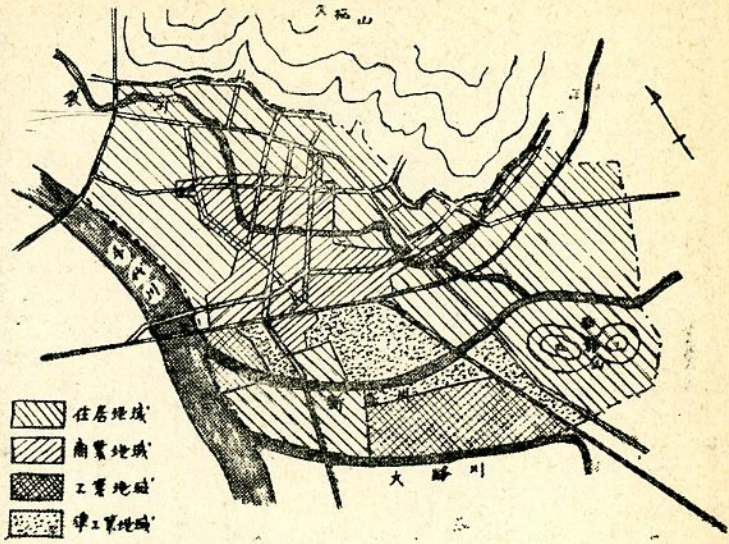
(元鋳物師町 井上儀信)

三位 石

(栗谷町 久利溪子)

三位 墓地

(立川二 岡本美代子)



用途地域に指定

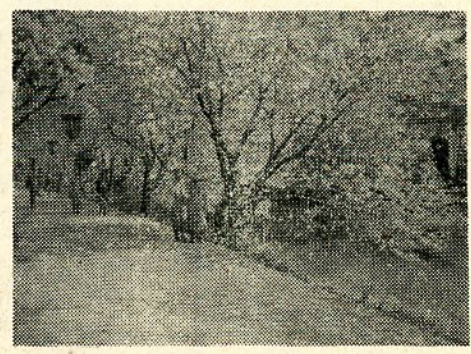
(10月10日から発効)

市街地を

市ではかねて鳥取市の旧市街地を中心とする区域を、市将来の都市計画画、用途指定地域とするよう建設大臣に申請していたところ、今年の9月20日許可になり、その効力が10月10日から発効しています。

あの頃の鳥取

(花のトンネル)



立川五
民野 武治

桜の花のトンネルといわれた鳥取の袋川土堤の桜を知る人は、鳥取近郷の人々のみ。この袋川延々一里の桜は、修立校、新橋、若松橋、智頭橋、鋳物師橋、出合橋、湯所の交番所まで、水面には噴水あり、屋形船浮び、新橋から鹿野橋までの間は各商店名入りの雪洞(ぼんぼり)に灯が入り、昼と夜といひ押すな押

すなの花見客であった。そのため午前10時から午後10時まで、この間は車馬通行止めをして巡査が三、四名交通整理をしていた。いまのように土堤の斜面は整理されていなかったが、その土堤の上、下では飲む、食う、唄う人の渦、それはそれは毎日をのんびりと花を見ていたものだ。鯛焼屋の匂いが鼻をつく、一つ式銭、餅を塗った餅入り丸パン一コ式銭。飲食店で酒一本が九銭、十円紙幣を「猪」といって結構使えたものであった。

川端通りに百番、美人座、フロリダ、クローバキー、ロンドン、寺町にミッキ、瓦町に花屋、文化等のカフェーがあり、ここでも酒一本が十銭であった。花見をしての帰途、鯛焼

建築に制限加わる

このたび用途地域が指定された範囲は上図のとおりです。この地域は、地勢環境、立地条件を考え、昔から続いている住宅地、商業地、工業地などを時代の動きにふさわしく、その上整然とした街ができるよう十分な基礎調査を行なった上で計画しました。法令が発効した上は、今後この区域に建物を建てる場合、建築基準法上の制限をうけることとなります。自分の土地建物などの地域に入っているかお知りになりたい方は、市役所都市計画課、県庁

建築課に図面があります

整然とした町に

鳥取市も大火後町並みも整いましたが、土地建物の変化が激しくなってきたので、この区域の使い方をとりきめたものです。これは鳥取市で暮すであろう私たちとその子孫のため、住みよい街つくりの基本となるときめいですから、皆さん心して守っていただきたいと思います。建物ばかりでなく、この区域内では用途に従って道路、交通機関、公共施設などにも計画的な配慮が加えられます。

街を美しくする運動

10月17日、市教委の発案による「街を美しくする運動」の協議会が婦人会館で開かれました。この日は婦人会代表、自治組織代表、商店街代表ら約三十人が集まり、市内中央を流れる袋川をきれいにすること、街からゴミをなくする運動を強力に推進することを申し合せ、今後それそれの組織を通じて身近なところから美化実践をはじめること、職場でチリ紙一つ片付けることでも励行していくこと、全国の県庁所在地は

きを五枚買ひ、カフェーで二本飲んで良い気持ちで下宿屋に帰る。斜に貼紙された下宿屋、貸屋は至る所にあった。三十五円の月給、十五円の下宿代、七銭のビールデンパット等。

活動写真館(映画館)といえは、川端に世界館、帝國館、末広通りに末広座、瓦町に鳥取座、また寺町に戎座、今町に大黒座の二劇場あり、三十銭から五十銭の入場料で観賞したもので、どの館、座も下足を預かってもらひ畳の上に座って観たものであった。

砂丘は兵隊の演習位いで誰一人見物に行く者はなかった。あの頃の鳥取、城下町の静かなのんびりした今から三十年前の頃であった。(写真は昔の桜土手、民野さん提供)

日本新生活運動協会から「街を美しくする運動」の指定都市になっており、鳥取もその一つです。最近、鳥取市内の道路、街路は国や県の手も加えられてつぎつぎ舗装改良されています。(若松街道、末広通り、大榎一宮林署前、賀露一八千代橋、吉岡線、市民病院前通り、浜坂の国道九号線など)。

道路の放置物は強制撤去市でも11月から市街地の道路上に許可なく放置されている物品は市のトラックが出勤して強制的にとり除くことになっています。ご注意ください。

造林用無償苗木は

月末に市農林課で

本紙10月号に掲載しました造林用苗木の無償配布記事で、10月25日から月末にかけて苗木をお配りする予定でしたが、農繁期をさけて次のように変更しました。

一、日時と配布地区
 ①11月29日(午前8時40分から午後4時30分まで)
 末恒、吉岡、大郷、松保、豊美、明治、東郷、大正地区

②11月30日(右同時時間)
 美穂、大和、神戸、倉田、面影、米里、稲葉山、中ノ郷地区

二、配布場所
 市役所農林課

三、その他
 通知書と印鑑をご持参ください。個人ごとにおいて、なつてもよろしいが、部落、農協(地区)ごとにとりまとめ、代表者がおいでになつてもよろしいです。

農林課

造林の好期

造林の好期が来ましました。苗木の準備はできましたか。来年の3月末までに造林した人(個人学校造林一反歩以上、公有造林は一町歩以上)には、農補助金がでます。必要な苗木は鳥取市森林組合(市役所隣り)へお申し

鳥取市の人口

(9月末日現在)

男女計	53,230	23,584	29,646
男	57,110	8,114	65,224
女	28,277	17,524	45,801

世帯

鳥取市森林組合

家庭でヤミ酒をつくらぬように

ご利用ください

自作農資金

市農業委員会では、農地の取得に要する資金、また病気災害など不測の事態によって生じた負債の整理に要する資金の貸付事務を行なっております。

貸付条件は年利息五分の元利均等償還で、貸付期間は十八年以内。貸付最高額は農地取得の場合四〇万円、その他の場合は三〇万円までです。

今年度の県枠はまだ相当残っているようですが、農林漁業金融公庫の事務手続きもあり12月末で貸付事務が打ち切られますから、自立経営農家としての経済基盤を確立するためにも大いにこの資金を利用してください。目下、当市の利用率は昨年の半分にも達しておりません。

市農業委員会事務局

11月の保健

- ▽ジフテリア、百日せき 予防注射
 - 5日(日進、明德、醇風)
 - 6日(稲葉山、修立、久松)
 - 7日(城北、面影)
 - 8日(大正、美保)
 - 9日(富美、遷喬)
- ※該当者は前月号参照、三回目をうける人の補足は12月7日に市民病院でします(1~2時)
- ▽三才児検診(カッコ内時間)
 - 7日遷喬(12時~3時)
 - 9日明德(10時~3時)
 - 16日醇風(9時半~4時)

19日(日進(同)) ※該当は33年10月から34年9月までの出生者、場所は遷喬が児童会館、他は小学校で

▽結核精密検診 9日まで保健所で(スポーツ)

寒い時季になりました。外から帰ったときなど手洗い、ウガイを励行いたしましょう。インフルエンザ(流行性感冒)を防ぐためウガイは効果的です。農繁期で身体の疲れるときです。大儀がらずに栄養のある食事をとりましょう。土中から体に入る寄生虫もあるの、ハダシで仕事しないように。体も冷えますから。

小児マヒ予防接種

三回目と追加分

(該当者)
 初回免疫Ⅱ昭和35年11月1日~昭和36年10月31日まで
 に生まれたもので、本年春(4~5月)の実施時に二回予防接種を完了しているもの

追加免疫Ⅱ昭和34年8月1日~昭和35年10月31日まで
 に生まれたもので、初回免疫三回を完了しているもの

(日程) 左のとおり
 (時間) いづれも午後1時半から3時半まで

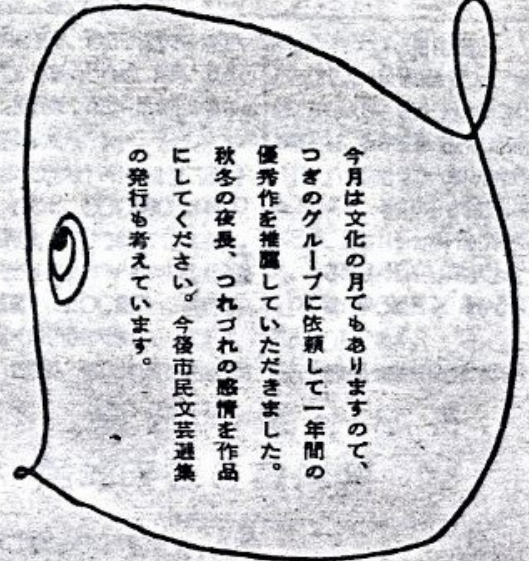
(接種場)	(区)	(域)	(接種日)
日進小学校	日進、米里、面影		11月27日(火)
遷喬	遷喬、松保、湖南		
醇風	醇風、富美		11月28日(水)
修立	修立、稲葉山		
久松	久松、賀露		11月29日(木)
体育館	神戸、大和、美穂、大正、東郷、倉田		
明德小学校	明德、美保、豊美、明治		
城北	中ノ郷、千代水、湖山		11月30日(金)
末恒			

とっとり市報127号

昭和37年11月5日

鳥取市総務課編集 発行 印刷 磯高木印刷所

とっとり市報



今月は文化の月でもありますので、つぎのグループに依頼して一年間の優秀作を推薦していただきました。秋冬の夜長、つれづれの感情を作品にしてください。今後市民文芸選集の発行も考えています。

詩

鳥取文学会作品
同会同人推薦

魚たち
井上 嘉明

巨大な海藻球を運ぶとき
自分の血脈の
誇りのため
魚は
あふあふと
あふあふと
血を流してはたした

キヤランを編織したと
水がたがた
響く
海苔の
潮の音は
波の音を刻み
進化する時針は
響いた手袋だ

花はめまき
花はめまき
花はめまき
花はめまき
花はめまき
花はめまき
花はめまき
花はめまき

俳句

泥棒猫が
関 收

泥棒猫が歩へのか
奇珍な足音の不思議な
奇怪な音をきいた

ネロカブのあじうた
おれがおどろくものだから
いい気になつて
街燈を消す

鳥取文学からはこのほか、小
川淳さんの「おまえ」が推
薦されてきました。

秋のことは
久利 漢子

人と人を結び合せるのも
お互に理解し合えないのも
信じてお互に信じてお互に
信じてお互に信じてお互に
信じてお互に信じてお互に
信じてお互に信じてお互に
信じてお互に信じてお互に
信じてお互に信じてお互に

短歌

日本海新聞歌壇作品
旭本利製氏推薦

自由と不自由を内へ住わせ

自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ

自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ

自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ

自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ

自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ

自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ
自由と不自由を内へ住わせ

昭和37年の 文芸選集

各グループ推薦による

あなたの手持ものが
ひびくはばはばしたのです
▼日本海新聞からは白二作品の
ほか、竹内米明さんの「空に
すむ」というあなたに「あり
ました。」

山陰日々新聞詩壇作品
鷺見まさ子氏推薦

朝
元狩物師町
井上 儀信

お月さま
岡本マキコ

あなたのカウンが
ほしくなつた
か細い光の輝んだ
ブレーンはサイレン
中心が、サブライム・ブルーで
まわりは、ローヒー色の
輝く光をまわつた

スキーヤー達の感嘆に
あつたの空気がせほほ
雁やいた 雁行列車のかたすみか
私はみつめている
遠い舞臺の中の
昨日と今日
お月さま

川井美佐代
軒先露のついでついでついで
とまよひの海の明るを
大森町二区
森田 龍生

北風のひらひらと鳴る軒下
鳥取のなつたつたつたつたつた
木町アパート
田田 文子

春の季節の石垣に耳をたたく
春の季節のひびきを聴かず
大森町三区
池本 正子

友と別れそれより別れ
めぐるみ道を行つて帰る
立川町四丁目
野田 佳代

台風は凄まじく地震をひつかきて
自慰しながら徐々に去りた
青炎短歌会作品
田中大海氏推薦

雪のなが過ぎのこころを朱色して
晒されてをりわが胸の果実
佐竹 弥生

俳句

自由律風紋の会作品
美田一草氏推薦

町が暮れる間際のかやいている
古川 一草

かた首で買える事もないわされ
ている
山田 慈光

朽ちてキチンと頑心である枕木
田村 義道

せせらる橋は故郷の月が出て
いる
元狩物師町
中野 道徳

いかにも初雪のふりかざら
れて
山田 一草

◇いづみ句会作品
森本歌津氏推薦

駅前太田神社
藤枝 夢月

原木林麓かに池へ遊歩へ
吉原

奥古鳥啼いて分岐日曜日
中村 文塚

◇砂句会作品
高田一大氏推薦

月光の裏の後に何もない
森本 龍生

父と手の真昼なき音が降る
岡本 虹郎

音無く音なき音の帆柱
山根 水郎

風の切剛音冬の速度で流れる
岸本 砂郎

積まれても運たれども秋刀魚水々
交勢
立川五馬大
小中 光雄

一片の雲と枯木と砂丘かな
立川 一

膝涼しまつわりの子のみな育ち
野坂

◇句誌「踏青」作品
藤 砂東氏推薦

立川五馬大
高田湖野子

ふるふるは遠くならけりんと
新町

喜寿の母かこみ小春の産に
川上規児氏推薦

一日の終る一家に輝けり
市内 津村 康典

綿菓子を売る街角に花あり
岡 田中 好洋

上京の日をひめりに衣を切る
岡 田中 好洋

笛を打つ風にしたがい高々と
立川町一丁目
太田 孝子

知らぬ間に植えた子供の花が咲き
吉方 一区

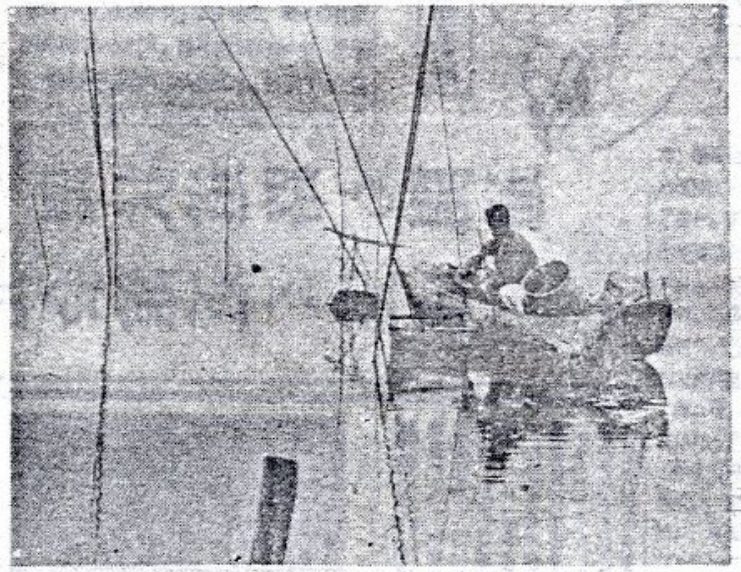
目先行た交えた料理に身が切し
大森町五区
井上 栄一

妻味味を生かす毛糸の手内職
立川町二丁目
加藤雄次郎

大酒をすなと海に還る
中野 一区
吉田かつ子

祝酒飲めぬ口入しつうけ
鳥取川柳会作品
同会 推薦

和服ブームへ仕立屋さんが足らぬ
なり
叶 阿村 日調



三津は湖山池湖畔の静
かな漁村である。神代
を思わせるクリ船が湖
上に浮かぶ。